

美術と美術工芸展

学園の美術工芸展の歴史は、創立2年目の1922年に開かれた作品展覧会にさかのぼる。

「ただによい景色や美しい花を見た時にだけ、僅かに美を感じることの出来るような頑なな心でなしに、どういうものの中にも秘されている美を見ることが出来るような深い心を培つてやりたい。それが自由学園の美術教育の主旨であります」という創立者の思いを受け継いで、一日24時間、一年四季折々の学園生活に根ざした美術教育を、学園創立以来、一貫教育の中で行なつてきている。

その成果を、南沢キャンパス全体を使って展示する「美術工芸展」が定期的に行なわれている。



美術工芸展

音楽と音楽会

音楽会
東京芸術劇場



創立者は「何でも本格的にする」「苦手なことほどよく努力して、全ての能力の調和を図る」という考えのもと、その道の一流の方に指導を依頼した。

自由学園の第1回音楽会（演奏会）は、大正13年（1924年）学園講堂で開かれた。第4回目（昭和4年、1929年）からは学外のコンサートホールを借りて行なうようになつた。第22回（昭和56年、1981年）の創立60周年記念音楽会以来、4年に一度開催している。



体操会（マイポールダンス）



体操と体操会

創立当初より、運動への関心は高かつた。1926年には、購入したばかりの南沢の用地で、第1回の運動会を開催して以来、地域の住民も招いてほぼ毎年行なわれていた。

現在に続く恒例の「メイポールダンス」は、この第1回運動会から行なわれている。

1931年、デンマークからニルス・ブック氏の率いる体操チームが来日した際、自由学園で演技発表を行なつたことをきっかけに、デンマーク体操への関心が高まつた。

1935年にデンマークのオレロップ体操学校に留学していた増田（立）祥子、松野（船尾）信子の二人の卒業生が帰国して指導者となり、デンマーク体操を定着させた。

その後も、多くの卒業生がデンマークに留学して、帰国後体操の指導に当たつていている。以後、デンマーク体操を中心とした「体操会」が、キャンパス中央にある「大芝生」全体を使って、全校の生徒・学生によって行なわれている。